

ボランティア活動への参加

先日私は高校生によるNPO活動「始めよう。僕らと防災」展を見ました。今、「防災」や「ゴミ拾い」活動など若者が中心となる団体のNPO登録が増えています。



防災やゴミ拾い等の活動以外にも、様々なボランティア活動の可能性があります。若者が運営に携わり、参加しやすくなるように運営規則を見直して、自主的、自発的な活動の手助けが重要です。

鎌倉検定、課外授業ガイドの活用

鎌倉商工会議所が実施している「鎌倉検定」。少数ではありますですが小学生の合格者もいます。また、市の観光課が発行している「かまくら課外授業ガイド」。さらに授業でも使っている「かまくら子ども風土記」。

子ども達に郷土への関心を持ってもらうには格好の出版物ですが、さらに発展させて『鎌倉子どもクイズ』を子ども達も参加して作ることも考えられます。NHKの大河ドラマ「鎌倉殿の13人」の開始と共に、楽しみながら鎌倉愛を育む一助になると思います。

市政への子ども達の提案

子ども達が、市に直接意見を寄せたり提案できる「私の提案」という制度があります。学校に投函箱があり、中央公園のアスレチック遊具の設置、難民の子ども達への服の寄贈などが実現されています。

次代を担う若者達が市政に関心を持つには、発信できること、発信が結果を生み、参加できる仕組みが必要です。いま子ども達が持つタブレットに市政への発信機能、相談機能を付けられないかと考えますが、現状では難しいようです。教育長も市長も、若い世代の意見を汲み上げる方法の実現を検討していくとの意見です。

ブログ「いやさか通信」から

畑作業も楽な季節に



今日は町内会の畑作業。青シソの実を収穫。整地をしてニンニク、エシャロットの植え付け。お喋りながらの楽しい作業。参加者も多くなりました(9/26)。

高校生の防災展示会



「学生団体 玄海(NPO)」が「始めよう。僕らと防災」展を開催。日進月歩の防災用品展示やモニターで流れる活動の様子などを教えられることができました(9/2)。

避難所開設用品の準備



鎌倉第二小ブロック避難所運営マニュアルを改訂中。用品の準備も進みました。できるだけ早く避難所開設時の訓練を実施したいと考えています(8/17)。

前川あやこのホームページからブログ「いやさか通信」をご覧ください。
<http://www.maekawa-ayako.net>

かまくら課外授業ガイド



鎌倉市観光課が発行するこの冊子、市外の子ども達が鎌倉を訪れる時のガイドブックで、隠れたベストセラー。市内の子ども達、大人にも楽しい1冊(9/6)。

モミジアオイが咲いた



友人のご主人が種から育てた苗を頂いたもの。夏の終わりにいよいよ咲き始めました。深紅の大きな葵の花形。華やかに庭を飾ってくれています(8/31)。

高波で土嚢がむき出し



8/9に発令された「波浪警報」。翌日現地を確認すると坂の下海岸の砂が流れ、浜小屋を守っている土嚢がむき出しへ。港の整備が急がれます(8/10)。

【発 行】前川あやこ 【住所】〒248-0003 鎌倉市淨明寺2-10-8
【TEL / FAX】0467-23-0964 【E-mail】info@maekawa-ayako.net
【前川あやこ履歴】1960年鎌倉市二階堂生まれ、聖心の園幼稚園
第二小・中学校、聖園女学院、日本大学。 討議資料



最近では町内会の役員会議もZoomで行われることが多くなりました。今回のテーマは移動困難地域解消のオンデマンドモビリティ。市の担当者にも参加いただき、進捗状況の説明など、貴重な会議となりました(2021.9.2.)。

前川あやこ

無所属 鎌倉市議会議員5期
2005年初当選 5期目 夢みらい鎌倉
議会運営委員会副委員長
教育福祉常任委員会委員

レポート
NO.72
2021.10発行

2021年9月議会からのご報告

- 1 次世代鎌倉市の担い手の育成
- 2 樹木管理と防災について



WEBサイト

前川あやこの活動は
ブログ「いやさか通信」
Facebook、Instagramをご覧ください。



いやさか通信



Facebook



Instagram

次世代鎌倉市の担い手の育成

鎌倉市の「子ども・若者育成プラン」は、H23年度に策定、今年3月、2度目の改訂が行われました。私は議員になる前から青少年育成に取り組んでいますが、この9月議会では「地域の担い手となる青少年の育成」を中心に一般質問を行いました。

10代の投票率は上がっているか

H27年の公職選挙法改正で選挙権年齢が満18歳以上となり、10歳代の投票率は直後の選挙では60%を超える高い投票率を示したものの、市議会選挙を例にとれば、H29年35.47%、R3年は43.41%と、全世代投票率よりも低くなっています。

鎌倉市では中学3年生の高校受験が終わった頃に、模擬選挙を行うなどの出前授業を実施し、啓発に努めていますが、さらに多くの取り組みが望まれます。

市政、まちづくりへの関心を高めるために

子ども議会の発展と充実を

議会制民主主義を子ども達に経験してもらうために、議場を利用して子ども達が意見を言い、市長が答える「子ども議会」が行われており、鎌倉市でも既に20年の歴史があります。

最近他市では、「子ども議会」を「子ども会議」に変更、年間テーマを決めて話し合い、年度末に市長へ報告会を開くなどの取り組みがあります。子ども達自身が地域に目を向け、それを政策へと高めて行くもの。鎌倉市でも取り組むべきと考えます。

鎌倉観光文化検定、公式テキスト

いわゆる「鎌倉検定」。鎌倉商工会議所が素晴らしい町鎌倉を次世代にバトンタッチしたいと、H19年から開始。コロナ禍で昨年、今年は実施できませんでしたが、ワクワクするような鎌倉紹介です。



樹林管理と防災について

最近では台風の影響だけでなく、線状降水帯による長雨による災害など、全国どこでも起こります。先の7月2日の雨の被害は市内各地で発生し、長雨の怖さを知らされました。例えば私の生地二階堂では、1本の木が電線に倒れたために350戸のお宅が半日にわたって停電。防災について改めて質問しました。

公有緑地の管理と民地の助成は

A 市が管理する緑地は、緑地維持管理計画に沿って危険木の伐採、日常の維持管理としての伐採や剪定が実施されている。さらに7月の大暴雨を受け、パトロールと危険木の伐採を行うよう、補正予算を計上し取り組んでいる。

民有緑地については、「既成宅地等防災工事資金助成事業」や「樹木管理事業」に加え、これまで支援対象にならなかった緑地も対象とした「民有緑地維持管理助成事業」がこの4月から運用、活用されている。

予算は足りているのか、予算の執行状況は？

A 4月から上記2つの助成事業を運用しているため、予算是2倍以上となったが、想定以上の申請があったこと、助成上限額の引き上げ等から予算が不足し、当9月議会に予算の増額補正を上程している。また7月の大暴雨による倒木被害を受け予算の増額補正を行った。

避難所運営マニュアルの作成状況

A 地域の自主防災組織(町内会等)が中心となり、避難所となる小学校の避難所運営マニュアルの作成が進んでいます。小学校11校が完成しており、4校が作成中。また中学校の避難所運営マニュアルも一部の地域で作成が行われている。今後も地域、学校との連携を図り、災害時の体制整備に努める。

感染防止対策等を盛り込んだ改定は？

A 一部の避難所では既に新型コロナウイルス感染拡大防止対策等を盛り込んだ改定が行われた所もあり、現在進行中の避難所もある。円滑な運営の基礎であり、市職員の支

援も含めて柔軟な対応をしたい。

自治会をまたぐ自主防災組織の経費は？

A 自主防災活動育成費補助金制度を設け、啓発活動や防災資機材等の設置には補助を行っているが、複数の組織が連携する活動は対象としていない。

共助の取り組みが進む中、複数の組織が連携して活動する例も増えており、現在の補助制度の見直しも含め、地域のニーズに合わせた補助制度を検討する。

マニュアルに基づく避難訓練について

A 鎌倉市では様々な形で防災訓練を行っているが、避難所運営マニュアルに基づいた訓練も大変重要と認識している。災害の折、避難所に非常参集する市職員の参加など、訓練の実施に協力している。

コロナ禍により、訓練の実施が難しい状況だが、訓練で明らかとなつた課題をマニュアルに反映させることも重要で、今後も協力していきたい。

風水害の場合の避難の浸透について

「避難勧告」という言葉は廃止され、「避難指示」に一本化されました。またコロナ禍の影響で「分散避難」や「在宅避難」などの新しい避難様式が重要になっています。これらの周知には、公報やホームページが使われていますが、まだまだ周知しきれていません。

HPを見ることが出来ない市民も多く、ポスターやチラシをつくり、各町内会の掲示板に貼るなど、様々な手法を検討して、市民の共通認識が高まるよう要望します。

ワクチン接種率は県内トップ

鎌倉市のコロナワクチン接種率は県内の市では1番です。
(65歳以上は市発表9/28、12歳～64歳は県発表9/26)

	1回目	2回目
65歳以上	87.64%	86.34%
12歳～64歳	65.18%	52.69%